

<b>1 学校教育目標</b> 「豊かな心を育み、未来を切り拓こうとする生徒の育成」 ～力を合わせ ともに伸びる～ 浜玉中三訓「時間 掃除 あいさつ」 ～時を守り 場を清め 礼を尽くす～	<b>2 本年度の重点目標</b> ①学力の定着と向上 ②心の教育の推進と道徳教育の充実 ③キャリア教育の推進 ④地域とともにある学校づくり
---	--

達成 A: ほぼ達成できた  
B: 概ね達成できた  
C: やや不十分である  
D: 不十分である

**3 目標・評価**

①学力の定着と向上						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)
教育活動	●学力向上	・学びあいの活用による基礎・基本の定着と確かな学力の向上	・生徒同士で互いの考えを深めて高め合える授業を行い、昨年度より授業がわかると思う生徒を70%以上にする。	・各授業で、生徒一人一人が考える時間や発表・検討し合える時間を設定する。 ・4人組での少人数活動により発言しやすい環境を作り、生徒が安心して学べる場を作る。	B	・学校評価アンケートの結果から、学び合い等による授業改善が行われ、授業が分かりやすいと考えている生徒が90.1%であった。また、保護者の達成率も89.3%で、学力向上への取り組みがしっかりと行われている。
学校運営	○教職員の資質向上	・ICT活用による授業力の向上	・授業におけるICTの活用を通して、生徒の学習意欲を喚起し、ICTが役に立つという生徒・保護者の割合が70%以上になる。	・教職員全員がICT機器を有効に活用できるよう、ICT活用に関する研修を計画的に行う。	A	・各クラスに電子黒板が配置されており、電子黒板を使った授業の機会が増えている。 ・ICTを活用した授業について検討し、生徒の学習意欲の喚起や生徒の学習に役立つための推進が出来る。

**②心の教育の推進と道徳教育の充実**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)
教育活動	●心の教育	・豊かな心を育てる道徳教育の推進	・生徒が自己肯定感を高め、豊かな人間関係を育み、自らの人生や未来を拓く力を育む。 ・教科化に向けて、小中連携で授業の工夫や改善の共通理解と実践を図る。	・全教育活動を通して育まれる豊かな心や道徳性を、道徳の時間に、補充・深化・統合する。 ・「いきいき学ぶからつ子」育成事業において、道徳教育の部会をもち、計画的な小中連携を図る。	B	・校内研究において、豊かな心を育む道徳教育を柱として研究を進め、自己肯定感や自己有用感を育む手立てをとった。 ・道徳の時間では、総合的な学習の時間や学校行事と関連付けて道徳教育の要となるように計画を立て実践した。
教育活動	●いじめ問題への対応	・いじめの未然防止、早期発見・早期対応	・いじめの未然防止のために、生徒の状況を細かく把握する。 ・いじめの早期発見・早期対応を行い、生徒が安心して学校生活を過ごすことが出来るように努める。	・OUテスト(年2回)、生活アンケート(月1回)、教育相談週間(年2回)を実施し状況把握に努める。 ・いじめが発覚した場合は、早急に対策委員会を立ち上げ、保護者・関係機関と連携しながら解決を図る。	A	・教育相談を定期的に行うことで、生徒の困り感や不安感に気づくことができ、いじめの未然防止につながった。 ・毎月生活アンケートを行うことで、いじめを早期発見することができた。 ・生徒の状況把握に重点を置き、小さいことも見逃さず、担任だけでなく、生徒指導、学年担当職員が連携して早急に対応することができた。
教育活動	○生徒指導	・浜玉中三訓(時間 掃除 あいさつ)の徹底	・自らあいさつができる生徒の割合を70%以上にする。	・生徒会活動で、生徒自ら啓発を行うことで、意識の高揚を図る。 ・生徒会を主体に毎朝あいさつ運動に取り組み。	A	・生徒会を主体とした活動を通して、自らあいさつできる生徒の割合が82%で目標を達成できた。 ・時間についても重点項目の1つとして取り組み、授業開始や下校時刻を守って生活できる生徒が大幅に増えた。

**③キャリア教育の推進**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)
教育活動	○進路指導	・キャリア教育の推進と情報提供の充実	・生徒の望ましい進路実現のため、適切な進路に関する情報を提供する。	・ていねいな進路相談を行う ・適切な時期に適切な情報提供を行う	B	・学校評価アンケートの「適切な進路情報を提供しているか」の問いに対して、肯定的な回答が保護者・生徒・教員ともに80%を超えているので、必要に応じた進路相談及び進路情報の提供を行うことができた。今後とも生徒・保護者のニーズをしっかりと把握したうえでキャリア教育の推進が必要である。
教育活動	○特別支援教育	・個々の生徒に応じたきめ細かい対応	・全職員が障害を持つ生徒への理解を深め、適切な支援ができるように努める。	・特別支援学級の学級経営案を作成し、支援について共通理解、共通実践を行い、支援体制を強化する。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に、支援会議を7月・9月に行う。	B	・特別支援コーディネーター、養護教諭、教育相談担当教員と連携して、職員や関係機関との情報交換を定期的に行うことができた。支援員との細かい打ち合わせや反省などは十分時間がとれなかった。 ・校内研修(特別支援教育)で、専門的見地から助言、指導をうけることができた。
教育活動	●健康・体づくり	・望ましい食習慣と自己管理能力の充実	・全校生徒の朝食喫食率を90%以上にする。また、給食の残食をなくす。	・生活アンケートを実施し、朝食喫食率を把握し、保護者へ向けても情報を提供し、意識高揚と改善を図る。 ・生徒会保健部と連携を図り、残食チェックや給食指導の徹底を行う。	A	・生徒会保健部と連携し、アンケートを実施することができ、実態把握(朝食喫食率90%)をし情報の提供をすることができた。 ・残食調査を実施することができ、調査期間には毎日、生徒や教師による呼びかけによって、残食量が減った。

**④地域とともにある学校づくり**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)
学校運営	○小中・地域連携	・小中連携と地域連携の充実と開かれた学校づくり	・授業参観の参加率を60%以上にする。 ・地域の人材を活かした、サークル活動や各種ボランティアを通して、小・中学校と地域の連携を通して、地域の発展に役立っていると思う生徒・保護者が70%以上になる。	・保護者との連絡を密にし、各種通信や地域への広報誌(浜玉つ子)等を通して啓発を図り、子どもへの理解・生活の改善を進める。 ・3つの小学校及び地域の講師と連携を密にし、各部会の運営を効果的に行う。	B	・1学期の日曜参観や2学期の文化発表会の保護者参観率は70%を超えた。しかし、2学期末の授業参観、懇談会参加率は30%程度にとどまった。 ・地域の方々の協力により、19サークルの開設ができた。また、「地域人材を生かした活動などで、地域の発展に役立っていると思う」と答えた保護者が92%、生徒が88%であり、目標値を大きく上回ることができた。

**本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・学校事務共同実施	・学校業務を改善し、教員が子どもと向き合う時間を確保できるように工夫する。	・学校文書処理の標準化・効率化を行う。	C	・SEI-Netの供货機能を活用したりして、文書処理等の標準化・効率化を図ったが、学校評価アンケートでは達成率が30%と低く、十分時間を確保できたとはいえない。 ・業務改善を検討する「業務改善検討委員会」の設置を提案し、委員の委嘱をすることができた。

**4 本年度のまとめ・次年度の取組**

・学校評価アンケートの結果から、生徒や保護者は概ね学校の教育活動に対して評価していたが、評価項目は概ね達成できている。  
・評価項目ではないが、「浜玉中学校に入学してよかったか」「学校生活は充実しているか」の質問に対して、達成率が生徒・保護者ともに90%以上であったことを考えても、本校の教育活動に対して評価していたといえる。  
・いじめ問題への対応については、教員と生徒・保護者との意識の差が大きく、生徒自身の評価があまり高くないので、評価を得られるような取組を考えていく必要がある。  
・最近の教育課題である「特別支援教育」「業務改善」については教員の評価が低いので、早急に対策を講じる必要がある。

●は共通評価項目、○は独自評価項目